

授業科目	臨床運動学				
担当者	島 雅人 (実務経験者)				
実務経験者の概要	島雅人：理学療法士として、病院や介護老人保健施設等にて実務経験あり。				
学科名	理学療法学専攻	学 年	2年	総単位数	1単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

## ■ 内 容

運動学総論、運動学各論、運動学実習で修得した知識を踏まえ、疾病や外傷により生じる心身機能・身体構造の変化や活動の変化について学ぶ。実際の運動を教材等で観察し、模倣しながら、障害のある対象者の運動特性を学ぶ。島 (実務経験者)

## ■ 到達目標

1. 疾病や外傷により生じる心身機能・身体構造の変化、運動・活動を理解できる。
2. 障がい者の姿勢や動作を観察し、その特徴や要因を検討することができる。
3. 機能障害と能力障害の関連を理解できる

## ■ 授業計画

- 第1回 コース・ガイダンス：講義の進め方、評定の他、これまでに学んだ基礎運動学との関連性を学ぶ  
関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第2回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第3回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第4回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第5回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第6回 関節可動域制限による運動や活動の変化を学ぶ
- 第7回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第8回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第9回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第10回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第11回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第12回 筋力低下（廃用性・末梢神経障害 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第13回 疾患（中枢神経障害、神経筋疾患 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第14回 疾患（中枢神経障害、神経筋疾患 等）による運動や活動の変化を学ぶ
- 第15回 本講義で学んだことについて復習、再確認を行う

## ■ 評価方法

【科目試験（筆記試験）80%】 小テスト20%

小テストを含む試験時に不正な行為があったと認められた者については、規程に定める第16条を適用し、当該学期の全ての試験を無効とし、失格（留年）とする。

## ■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

第2回～第5回においては、各関節の構造、機能をあらかじめ学習しておくこと。

第6回～11回においては、各関節に作用する筋について、起始、停止、作用、支配神経をあらかじめ学習しておくこと。

第12回～14回においては、特に中枢神経系の障害について、その特徴を学習しておくこと。

小テストを実施し、定期的に理解状況を確認する。毎回の授業で学習したことを復習し、小テストに臨んでください。

実施した内容について理解が不十分であった場合は、次の授業までに質問に来て理解を深めてください。

## ■ 教科書

書名：PT・OTのための運動学テキスト：基礎・実習・臨床

著者名：小柳 磨毅 ほか

出版社：金原出版

## ■ 参考図書

書名：臨床運動学

著者名：小林麻衣、小島悟

出版社：中山書店

## ■ 留意事項

## ■ 講義受講にあたって

既に学習した運動学の知識を用いる為、運動学の知識が十分でない場合は自ら補うこと。

分からないことがあれば質問して解決すること。